

日本のカワウに関する文献資料

福田道雄

東京都葛西臨海水族園 〒134-8587 東京都江戸川区臨海町6-2-3

E-mail: mogufuku@beige.ocn.ne.jp

カワウは、北海道から九州までの各地に生息していたと言われている(清棲 1952, 黒田 1925)。しかし、それら各地の生息についての記載はあまり残っていない。多くの記事や報告が、カワウが減少し、1971年に最小の数千羽になってから以降のものである。一方、現在ではカワウの羽数の増加にともなう、各地で食害など、人との摩擦によって生じたさまざまな問題が起こっている。それらの問題に対処するためには、カワウの生息状況を科学的に検討することができる、より多くの調査研究の進展が望まれる。それらに少しでも役立つように、これまでに報告された日本のカワウに関する文献資料を収集し、内容別に6項目に分けてリストを作成した。体裁の整っていない報告も多かったが、印刷またはそれに準ずる形の報告はできるだけ含めた。また、カワウの調査研究の動きがわかるように、各種の学会や研究会で発表された講演要旨も収集した。カワウについての記事が、一部にのみしか含まれないものは、基本的に除外した。リストにあげた資料の一部は「かわう」(カワウ標識調査グループニュースレター) 2-3, 5-7, 12号に掲載されたものである。また、一部の報告は、内容が複数の項目に分かれていたが、主要な内容を選び、いずれかの項目に加えた。

約260編の文献資料が収集できた。内容についてはカワウの生活状況を含む生息に関するものが最も多く、約4割を占めていた。次いで、繁殖、日常行動、移動・分散、食性などの生態に関するものであった。非常に詳しく研究された報告が一部にあった一方で、簡単な記録を中心に記載されたものも少なくなかった。年代別の流れでは、1970年代の多くの報告は、残存したコロニーの状況や新コロニーの発見など生息状況に関するものであった。その後の1980~1990年代前半から、東京都台東区不忍池コロニーでの繁殖などの生態や、不忍池コロニーと愛知県知多郡鵜の山コロニーでの標識調査に関する報告などが加わった。1990年代後半では、安定同位体比の手法を用いた食性などの解析、コロニー内の植生への糞などの影響、重金属や有機化学物質の体内蓄積などについても詳しい報告がされ始めている。今後、より科学的で多岐にわたる報告がされると共に、今まで報告のほとんどない個体群動態に関する研究が進むことを願いたい。

資料収集に際して、井関直政、石田朗、亀田佳代子、加藤七枝、成末雅恵、佐藤孝二、田辺信介の諸氏にご協力下さった。あわせて謝意を表したい。

引用文献

清棲幸保. 1952. 日本鳥類大図鑑II. pp. 608-610. 講談社, 東京.

黒田長禮. 1925. 日本産ウミウに就いて. 鳥 4: 336-350.

日本におけるカワウの文献資料

1. 全般

愛知県道路公社. 1989. 鶺鴒の環境調査報告書 (参考資料). 50pp.

福田道雄. 1992. 追われるカワウ. 朝日新聞(東京版). 1. 編隊飛行(2月29日), 2. コロニー(3月7日), 3. 魚とり(3月14日), 4. 指定席(3月28日), 5. 子育て(4月11日), 6. 夫婦別れ(4月18日), 7. ヘルパー(4月25日), 8. 子育て期間(5月9日), 9. 都市生活者(5月16日), 10. 流転(5月23日), 11. 生態知られずに駆除の標的に(5月30日).

福田道雄. 1995. カワウ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(II). VIII. 水鳥. pp. 684-689. 日本水産資源保護協会.

福田道雄. 1996. カワウ. 琵琶湖におけるカワウの生息状況. pp. 1-8. カワウ環境研究会.

福田道雄. 1999. カワウ. 内分泌攪乱化学物質による野生生物影響実態調査マニュアル. pp. 64-69. 自然環境研究センター.

2. 生息状況

阿部誠一. 1993. 平成4年度カワウ生息調査結果報告書. 13pp.

阿部誠一. 1994. 平成5年度カワウ生息調査結果報告書. 12pp.

阿部誠一. 1995. 平成6年度カワウ生息調査結果報告書. 5pp.

阿部誠一. 1996. 平成7年度カワウ生息調査結果報告書. 5pp.

阿部誠一. 1997. 平成8年度カワウ生息調査結果報告書. 平成8年度むつ市文化財調査報告第23集. pp. 93-96. むつ市教育委員会.

阿部誠一. 1998. 平成9年度カワウ生息調査結果報告書. 平成9年度むつ市文化財調査報告第25集. pp. 87-95. むつ市教育委員会.

阿部誠一. 1999. 平成10年度カワウ生息調査結果報告書. 平成10年度むつ市文化財調査報告第26集. pp. 105-113. むつ市教育委員会.

愛知県. 1983. 「鶺鴒の山」のカワウ生息調査報告書. 24pp.

愛知県教育委員会. 1982. 天然記念物「鶺鴒の山のウ繁殖地」緊急調査報告書. 20pp.

浅川千佳夫. 1998. 群馬県におけるカワウの生息状況. Field Biologist 8: 42-46.

Austin, O.L. & Kuroda, N. 1953. *Phalacrocorax carbo hanedae* KURODA. Bulletin of the Museum of Comparative Zoology 109 (4): 317-319.

福田道雄. 1976. カワウのコロニー救出作戦. どうぶつと動物園 28: 337.

福田道雄. 1977. 不忍池のカワウ. がちょう (25): 81-82.

福田道雄. 1979. 大都会のカワウ. どうぶつと動物園 31: 56-59.

福田道雄. 1983. カワウの現状. 私たちの自然 (262): 13.

福田道雄. 1984a. カワウのコロニーの再建. どうぶつと動物園 36: 124-128.

福田道雄. 1984b. さまよえるカワウ. 自然保護 (264): 8-10.

- 福田道雄. 1984c. 不忍池のカワウとカモ. 野鳥さいたま (9): 4-7.
- 福田道雄. 1984d. 擬木にすむカワウ. 私たちの自然 (275): 16-17.
- 福田道雄. 1985. 都心に生きるカワウ. 動物と自然 15: 11-15.
- 福田道雄. 1987. 大都会に生きるカワウ. どうぶつと動物園 22: 258-261.
- 福田道雄. 1988. さすらい始めたカワウたち. 野鳥 (505): 27.
- 福田道雄. 1989. カワウはどこへいくか. 愛知の野鳥 (42): 2-6.
- 福田道雄. 1992. カワウと東京湾. ユリカモメ (441): 9.
- 福田道雄. 1993. 琵琶湖のカワウについての謎. かいつぶり (10): 1.
- 福田道雄. 1995a. 増加しはじめたカワウ. 加藤陸奥雄ほか(監). 日本の天然記念物. pp. 733. 講談社, 東京.
- 福田道雄. 1995b. 関東のカワウは東京湾のカワウ. はばたき (278): 2-3.
- 福田道雄. 1998. カワウの生活をさぐる. 野鳥 (614): 42-43.
- 降旗真夫・中川志郎. 1970. 不忍池にすみついたカワウ. どうぶつと動物園 22: 258-261.
- 長谷川匡俊. 1971. 鶺鴒の森の歴史から. 龍が沢 (35): 4-5.
- 橋本太郎. 1981. 三重県内カワウの新繁殖地について. 三重生物 (29/30): 9, 11.
- 橋本太郎. 1983. 三重県鳥類の分布と生態. 記録・生態・写真集編. pp. 84-91, 記録と標本編. pp. 21-22, 36 (自費出版).
- 樋口行雄・藤岡正博. 1982. 三重県における新しいカワウのコロニー. Strix 1: 120-122.
- 細谷賢明. 1988. 山陰地方のカワウについて. しまね野鳥 (41): 2-13.
- 堀田光鴻. 1939. 竹生島の鳥. 野鳥 6: 714-717.
- 飯泉仁. 1993. カワウの手賀沼進出について. かわう (12): 3.
- 井上賢三郎. 1993. 八代市におけるカワウの多数渡来報告. 野鳥くまもと (10): 4-5.
- 石田朗. 1993. 日本のカワウの現状と問題点. 森林防疫 42: 2-5.
- 石田朗. 1996. 愛知県におけるカワウの現状(発表要旨). 第45回日本林学会中部支部大会講演要旨集. pp. 36.
- 伊藤信義. 1987. 琵琶湖竹生島のカワウの営巣状況. かわう (8): 3.
- 鍋木外岐雄. 1932. 猿賀の鶺鴒・鶺鴒繁殖地. 天然記念物調査報告動物部第二輯. pp. 94-100.
- 川口孫治郎. 1933. カハウの繁殖(葉書通信). 鳥獣報告 9: 126.
- 川村多實二. 1934. 琵琶湖に棲息せる鳥類調査. 鳥獣彙報 1: 624-629.
- カワウ研究グループ. 1981. 浜松周辺に滞在したカワウについて. 44pp.
- カワウ研究グループ. 1987. 浜松周辺におけるカワウの状況. 9pp.
- かわう編集部. 1990. 大阪府泉北地域におけるカワウの近況. かわう (7): 3.
- 木島年男. 1972. 不忍池のカワウ. 上野動物園飼育研究会報告集 (5): 22-23.
- 小山信行. 1971. 猿賀神社の鳥から思うもの. 野鳥 36: 545-546.
- 小山信行. 1972. 猿賀神社の鳥全滅. 野鳥 37: 91.
- 口分田政博. 1993. 「カワウ」分布調査. かいつぶり (20): 17-19.
- 倉田篤. 1970. 三重県におけるカワウ・ウミネコのコロニーについて. CRINUM 12: 30-31.

- 丸山廉. 1956. 愛知県知多郡の鶺鴒. 野鳥 21: 138-139.
- 松村俊幸・小嶋明男. 1995. 福井県におけるカワウの繁殖初記録. *Ciconia* 4: 37-40.
- 松山資郎. 1940. 鶺鴒の森. 旅 (昭和15年2月号): 28-31.
- 松山資郎. 1975. カワウ. この鳥を守ろう. pp. 42-45. 学習研究社, 東京.
- 松沢友紀・成末雅恵・加藤七枝・福井和二. 1999. 関東地方におけるカワウ—個体数と分布に関する最近の動向— (発表要旨). 日本鳥学会1999年度大会講演要旨集. p. 150.
- 三島文雄. 1990. 柿原池探訪記. しまね野鳥 (45): 6-9.
- 三島文雄. 1991. 松江地方のカワウ. しまね野鳥 (48): 11-14.
- 森川幸代. 1993. 西浅井町のカワウ. かいづぶり (20): 22-24.
- 永田尚志・吉兼隆. 1988. 端梅寺川河口のカワウの越冬個体群. かわう (4): 3.
- 中村民男. 1971. 鶺鴒の森思考. 龍が澤 (35): 1-2.
- 成末雅恵・福田道雄・福井和二・金井裕. 1997. 関東地方におけるカワウの集団繁殖地の変遷. *Strix* 15: 95-108.
- 成末雅恵・福井和二・金井裕. 1995. 関東地方におけるカワウの冬期の繁殖地とねぐらの分布と環境特性 (発表要旨). 1995年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集. p. 90.
- 成末雅恵・金井裕・福田道雄. 1994. 関東地方におけるカワウの集団繁殖地の動向 (発表要旨). 1994年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 72.
- 成末雅恵・加藤七枝・松沢友紀. 1998. ねぐら・繁殖地アンケート結果の報告と追跡. 野鳥 (614): 40-41.
- 成末雅恵・加藤七枝・福井和二・松沢友紀・石田朗. 1998. 日本におけるカワウの集団繁殖地と集団時の分布 (発表要旨). 1998年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 93.
- 日本鳥類保護連盟. 1991a. カワウの生息実態調査報告書. 日本鳥類保護連盟. 30pp.
- 日本鳥類保護連盟. 1991b. カワウの生息実態調査報告書. 日本鳥類保護連盟. 19pp.
- 日本野鳥の会神奈川県支部. 1998. 相模川水系におけるカワウの分布状況調査 (第1報). *BINOS* 5: 77-82.
- 日本野鳥の会三重県支部. 1996. 平成7年度カワウ生息実態調査報告書. 三重県環境安全部自然環境課. 23pp.
- 日本野鳥の会栃木県支部. 1997. 栃木県におけるカワウの生息状況調査 (平成8年度) 報告書. 21pp.
- 日本野鳥の会栃木県支部. 1998. 平成9年度カワウの生息状況調査報告書. 38pp.
- 日本野鳥の会遠江支部調査研究委員会. 1991. 静岡県西部地方におけるカワウの生息状況. 4pp.
- 大羽康利. 1988. 三河湾のカワウ. かわう (3): 2-3.
- 大島英太郎. 1995. 栃木県におけるカワウ *Phalacrocorax carbo* の進出状況について. *Accipiter* 1: 19-23.
- 小山田静夫. 1974. 鶺鴒の山の四季. 野鳥 39: 574-579, 625-630.
- 小山田静夫. 1978. かわ鶺鴒の里. 知多文化 (2): 26-34.
- 小沢敬二. 1990. 仙美里ダムでカワウを見る. 十勝野鳥だより (93): 3.

- 斎藤源三郎. 1931. 大巖寺の鶺鴒の観察. 鳥 (32): 175-176.
- 斎藤源三郎. 1933. 再び大巖寺の鶺鴒に就いて. 鳥 (36): 22-35.
- 斎藤成人. 1989. 三重県風早池と石垣池のカワウのコロニーの調査. かわう (6): 3.
- 鮫島宗一. 1971. 鶺鴒の島柳島. 龍が沢 (35): 5.
- 鮫島宗一・木島年男. 1973. 不忍池のカワウ. どうぶつと動物園 25: 114-116.
- 佐藤孝二. 1987. 豊橋市のカワウの新コロニー. かわう (2): 2.
- 佐藤孝二. 1989. わが国におけるカワウコロニーの歴史と現状. 名古屋大学古川総合研究資料館報告 (5): 43-64.
- 佐藤孝二. 1990. 天然記念物「鶺鴒ノ山鶺鴒繁殖地」の復活. 知多半島の歴史と現在 (2): 110-113.
- 佐藤孝二. 1996a. 資料: <鶺鴒の山> ヒトとカワウの共栄の歴史. 一宮女子短期大学紀要 (36): 101-114.
- 佐藤孝二. 1996b. ウノトリ—黒い鳥. 白い鳥. ほたる 10: 1-11.
- 佐藤孝二. 1998. ヒトとカワウ <鶺鴒の山> 物語. 獣医畜産新報 51: 120-124.
- 佐藤孝二. 1999. 鶺鴒の糞山一日長のカワウコロニー. ほたる 13: 3-9.
- 静岡県立湖西高等学校生物部. 1998. 浜名湖に生息するカワウ (*Phalacrocorax carbo*) の観察 (新居町中之郷コロニーを中心として). 静岡県立湖西高等学校研究紀要. 創刊号: 50-56.
- 菅沼悌治. 1985. 浜名湖新居町中之郷の鶺鴒 (かわう). 3pp.
- 菅沼悌治. 1987. 浜名湖新居コロニーの近況. かわう (2): 3.
- 須川恒. 1990. 琵琶湖竹生島のカワウのコロニー. かわう (8): 1-3.
- 須川恒. 1991. 琵琶湖における第2番目のカワウのコロニー発見経過. かわう (10): 2.
- 須川恒. 1993. 魚食性水鳥 (ウヤミズナギドリなど) の生態と現況. 関西自然保護機構会誌 14: 65-72.
- 須川恒. 1997a. 滋賀県におけるカワウの生息状況. 平成8年度カワウによる竹生島植生影響調査報告書. pp. 61-89. 滋賀県生活環境部自然保護課.
- 須川恒. 1997b. 琵琶湖におけるカワウの個体数の経年変化 (発表要旨). 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 109.
- 須川恒・植田潤. 1993. 琵琶湖のカワウの最近の動向について. かいつぶり (20): 2-16.
- 武石干雄. 1979. カワウの新繁殖地. 私たちの自然 (212): 14-15.
- 武石干雄. 1984. 野鳥風土記10. 大分県. 動物と自然 14 (6): 27-33.
- 武石干雄・財津博文. 1979. 沖黒島のカワウ. たより (28): 2.
- 田辺盛光. 1971. 「鶺鴒の森」に想う. 龍が沢 (35): 3-4.
- 田中次夫. 1993. 播磨地方におけるカワウの現況. 西播磨鳥会ニュース (45): 2-3.
- 右島晃総. 1957. 大巖寺を訪ねて. 野鳥 22: 346-347.
- 山出江美子. 1993. 近江八幡のカワウ. かいつぶり (20): 20-21.

3. 生態 (繁殖, 行動, 移動・分散, 食性など)

- 安藤滋・小笠原昭夫. 1983. レーダーテレメトリによるカワウの行動追跡 (発表要旨).

第30回日本生態学会講演要旨集. p. 275.

- 福田道雄. 1980. カワウの生活. 野鳥 45: 679-684.
- 福田道雄. 1981a. 不忍池. カワウの繁殖. アニマ (103): 39-41.
- 福田道雄. 1981b. 不忍池のカワウの繁殖状況と採餌活動. 上野動物園飼育研究会報告集 (11): 87-91.
- 福田道雄. 1981c. カワウのコロニーの拡大と群の分散. どうぶつと動物園 33: 368-373.
- 福田道雄. 1982a. 下北半島におけるカワウの繁殖. 鳥 31: 69-74.
- 福田道雄. 1982b. コロニーの調査. 私たちの自然 (243): 10-14.
- 福田道雄. 1983. カワウの雛数の異なる巣における育雛労力の比較 (発表要旨). 鳥 31: 79.
- 福田道雄. 1984. カワウでみられたヘルパー行動 (発表要旨). 鳥 33: 89.
- 福田道雄. 1986. カワウのコロニー形成 (発表要旨). 日本鳥学会誌 35: 92.
- 福田道雄. 1987. カワウの抱卵調査 (発表要旨). 日本鳥学会誌 36: 114.
- 福田道雄. 1988a. カラーリングによって調べたカワウの移動状況 (第1報). 日本鳥類標識協会誌 2: 63-70.
- 福田道雄. 1989. カワウの年齢と番い関係 (発表要旨). 日本鳥学会誌 37: 176.
- 福田道雄. 1991. 巣立つ子と夫婦の離婚. 動物たちの地球 6: 52-55.
- Fukuda, M. 1992. Male-male pairing of the Great Cormorant (*Phalacrocorax carbo hanedae*). Colonial Waterbird Society Bulletin 16(2): 62-63.
- 福田道雄. 1993a. カワウは一人と共存出来るか. 関西自然保護機構 14: 107-113.
- 福田道雄. 1993b. カワウの若齢で繁殖を開始した個体は優秀だろうか (発表要旨). 日本鳥学会大会講演要旨集1993. p. 68.
- 福田道雄. 1994a. 標識したカワウのコロニーからの長距離移動. 日本鳥類標識協会誌 9: 5-10.
- 福田道雄. 1994b. カワウの生態と関東地域での生活. カワウ生息実態調査報告書. pp. 38-45. 東京都鳥獣保護員協会.
- 福田道雄. 1994c. カワウにおけるオスとメスの繁殖戦略の比較 (発表要旨). 1994年度日本鳥学会大会講演要旨集. pp. 5-6.
- Fukuda, M. 1995a. Notes on incubation of seven eggs by Great Cormorant *Phalacrocorax carbo*, Shinobazu Pond, Tokyo. Bull. JBBA 9: 35-37.
- 福田道雄. 1995b. カワウ人との共存は可能か. 私たちの自然 (402): 14-17.
- 福田道雄. 1995c. 不忍池コロニーにおけるカワウの繁殖開始に影響を及ぼす要因 (発表要旨). 1995年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集. p. 20.
- 福田道雄. 1995d. カワウの繁殖開始年齢 (発表要旨). 日本鳥類標識協会誌 9: 53.
- 福田道雄. 1996a. 日本のカワウの現状. 琵琶湖におけるカワウの生息状況. pp. 9-16. カワウ環境研究会.
- 福田道雄. 1996b. 琵琶湖におけるカワウの繁殖状況と標識調査. 琵琶湖におけるカワウの生息状況. pp. 33-53. カワウ環境研究会.
- 福田道雄. 1996c. カワウの習性と現状の問題点. 狩猟界40 (1): 72-75.

- Fukuda, M. 1997a. Relationships between age and breeding success of Great Cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* at Shinobazu Pond colony, Tokyo, Japan. *Suppl. Ric. Biol. Selvaggina* 27: 439-443.
- 福田道雄. 1997b. カワウの創設コロニーと小形サブコロニーの関係. *日本鳥類標識協会誌* 12: 31-38.
- 福田道雄. 1997c. コロニー間で観察された標識カワウの移動状況 (発表要旨). *日本鳥類標識協会誌* 12: 19-20.
- 福田道雄. 1999a. カワウの繁殖戦略 (発表要旨). *日本鳥学会1999年度大会講演要旨集*. p. 27.
- 福田道雄. 1999b. 山陰地域で越冬するカワウはどこから来るのか (発表要旨). *第14回日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集*. p. 15.
- 福田道雄・黒鳥英俊・小森厚. 1982. カワウの繁殖状況. *世界野生生物基金日本委員会昭和56年度保護事業資金助成調査報告書*. 26pp.
- 畠山高. 1983. 市柳沼におけるカワウのコロニー (集団繁殖地) の調査報告. *青森県立六ヶ所高等学校研究紀要*. pp. 28-36.
- 石田朗. 1997. 複数のコロニーが集中した地域における標識カワウの移動状況 (発表要旨). *日本鳥類標識協会誌* 12: 20-21.
- 石田朗・斉藤成人・佐藤孝二. 1994. 鶴の山で放鳥した標識カワウの移動状況 (発表要旨). *1994年度日本鳥学会大会講演要旨集*. p. 71.
- 亀田佳代子. 1999. カワウはどのくらいの量の物質を水中から陸上へと運んでいるのか (予報) (発表要旨). *日本鳥学会1999年度大会講演要旨集*. p. 145.
- 亀田佳代子・森貴久・山岸哲. 1998. 安定同位体比分析を用いた食性解析 (発表要旨). *1998年度日本鳥学会大会講演要旨集*. p. 69.
- かわう編集部編. 1991. 浜名湖周辺で駆除されたカワウ34羽から採取された胃内容物. *かわう* (10): 3-4.
- 幸田正典. 1995. カワウの食性. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究カワウの生態・形態・化学的研究. pp. 62-78. *国立環境研究所委託事務報告書*.
- 幸田正典・山岸哲・原田俊司・堀田昌伸. 1994. 個体数の急増している琵琶湖のカワウ, *Phalacrocorax carbo* の食性に関する報告. *関西自然保護機構報* 16: 43-48.
- 黒田長禮. 1925. 日本産ウミウに就いて. *鳥* 4: 336-350.
- 桑原和之. 1992. カラーリングのついたカワウ. *バンダーニュース* (2): 6-7.
- 松原健司・亀田佳代子・山田佳裕・芳賀裕樹. 1996a. 窒素・炭素安定同位体比からみた琵琶湖におけるカワウの食性. 安定同位体による生物圏の化学構造の解明—新しいパラダイムの確立. pp. 71-74. *平成5年度科学研究費補助金一般研究成果報告書*.
- 松原健司・亀田佳代子・山田佳裕・芳賀裕樹. 1996b. 窒素・炭素安定同位体比からみた琵琶湖におけるカワウの食性. 安定同位体比からみた琵琶湖生態系の構造. pp. 18-23. *琵琶湖博物館委託研究報告書*.
- 松沢友紀. 1996. 関東地方におけるカワウの繁殖特性のコロニー間比較 (発表要旨). *第43回日本生*

- 態学会講演要旨集. pp. 128.
- Matsuzawa, T. 1998. Distribution and abundance of Common Cormorants (*Phalacrocorax carbo*) in the Kanto District. 東京大学大学院農学生命科学研究科修士論文. 54pp.
- 水谷広. 1996. 琵琶湖での採食活動状況. 琵琶湖におけるカワウの生息状況. pp. 102-139. カワウ環境研究会.
- Mizutani, H., Fukuda, M., Kabaya, Y. & Wada, E. 1990. Carbon isotope ratio of feathers reveals feeding behavior of Cormorants. *Auk* 107: 400-403.
- 森谷存子. 1981. カワウのコロニー内での行動. 日本女子大学卒業論文. 78pp.
- 成末雅恵・加藤七枝・福井和二・金井裕. 1996. カワウの生息がゴイサギの営巣状況に与える影響 (発表要旨). 1996年度日本鳥学会大会講演要旨集. p.95.
- 日本鳥類保護連盟. 1988. カワウ. 昭和62年度環境庁委託調査鳥獣害性対策調査報告書. pp. 98-249. 環境庁.
- 日本野鳥の会. 1980. 日本におけるカワウの現状. 昭和54年度環境庁委託調査特定鳥類等調査. pp. 47-86. 環境庁.
- 日本野鳥の会. 1994. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査報告書. 東京都建設局南部公園事務所. 36pp.
- 日本野鳥の会. 1995. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査 その2報告書. 東京都建設局南部公園事務所. 48pp.
- 日本野鳥の会. 1996. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査 その3報告書. 東京都建設局南部公園事務所. 75pp.
- 日本野鳥の会. 1997. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査 その4報告書. 東京都建設局南部公園事務所. 82pp.
- 日本野鳥の会. 1998. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査 その5報告書. 東京都建設局南部公園事務所. 76pp.
- 日本野鳥の会. 1999. 水産庁委託調査 平成10年度内水面漁場高度利用調査委託事業(かわう等野鳥関係) 報告書. 日本野鳥の会. 28pp.
- 小笠原淳子. 1977. 不忍池に生息するカワウに関する調査. 日本女子大学卒業論文. 102pp.
- 斉藤成人. 1993. “鶴の山”で放鳥したカワウのカラーリング標識個体の観察状況. 日本鳥類標識協会誌 8: 19-25.
- 佐藤孝二. 1990. 天然記念物「鶴の山」鶴繁殖地の復活—美浜個体群の集合と分散—. 名古屋大学古川総合研究資料館報告 (6): 55-67.
- 佐藤孝二. 1991. アルビノカワウとその行動. 名古屋大学古川総合研究資料館報告 (7): 55-66.
- 佐藤孝二. 1992. 天然記念物“鶴の山”鶴繁殖地: 現状と将来. 一宮女子短期大学紀要 (31): 81-93.
- 佐藤孝二. 1993. カワウ (*Phalacrocorax carbo*) の標識調査: 方法と結果. 東海畜産学会報 4: 32-37.
- 佐藤孝二. 1994. アルビノカワウ. 2例. *J. Anim. Genet.* 22: 29-32.

- 佐藤孝二. 1996a. カワウ美浜個体群の集合と分散(1). 日本学術会議シンポジウム「ヒトと動物のかかわり」. 畜産の研究 50: 971-978.
- 佐藤孝二. 1996b. カワウ美浜個体群の集合と分散(2). 日本学術会議シンポジウム「ヒトと動物のかかわり」. 畜産の研究 50: 1097-1101.
- 佐藤孝二・斉藤成人. 1993. カワウ (*Phalacrocorax carbo*) の集合と分散: 美浜個体群における標識調査. 一宮女子短期大学紀要 (32): 145-163.
- 佐藤孝二・杉森文夫. 1986. ヒトと「野生」共栄の途を探る. トヨタ財団報告書(85-II-114). 36pp.
- 佐藤孝二・富田文子. 1990. カワウの繁殖性—美浜個体群—. 東海畜産学会報 1: 27-32.
- 佐藤孝二・斉藤成人・石田朗. 1994. 愛知県におけるカワウコロニーの歴史と現況. 一宮女子短期大学紀要 (33): 87-105.
- 佐藤孝二・斉藤成人・石田朗. 1995. カワウ (*Phalacrocorax carbo*) の集合と分散: 美浜個体群における標識調査II. 一宮女子短期大学紀要 (34): 109-123.
- 東京都鳥獣保護員協会. 1994. カワウ生息実態調査報告書. 45pp.
- 東京都恩賜上野動物園. 1992. カワウ *Phalacrocorax carbo hanedae* の調査結果報告書. 214pp.
- 東京都恩賜上野動物園. 1993. カワウ *Phalacrocorax carbo hanedae* の調査結果報告書II. 29pp.
- 植田潤. 1997. カワウの採食内容調査の試み. 平成8年度カワウによる竹生島植生影響調査報告書. pp. 90-97. 滋賀県生活環境部自然保護課.
- 山岸哲. 1995. カワウの繁殖生態. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 7-26. 国立環境研究所委託事務報告書.
- 山岸哲・幸田正典・原田俊司・堀田昌伸. 1994. 琵琶湖で有害駆除されたカワウの剖検からわかったこと(発表要旨). 日本鳥学会大会講演要旨集 1993. p. 62.

4.生理(生体蓄積, 寄生虫など)

- Guruge, K.S. & Tanabe, S. 1997. Congener specific accumulation and toxic assessment of polychlorinated biphenyls in Common Cormorants, *Phalacrocorax carbo*, from Lake Biwa, Japan. Environmental Pollution 96: 425-433.
- Guruge, K.S., Tanabe, S. & Fukuda, M. submit. Toxic assessment of PCBs by the 2, 3, 7, 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin equivalent in Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. Arch. Environ. Contam. Toxicol.
- Guruge, K.S., Tanabe, S., Fukuda, M., Yamagishi, S. & Tatsukawa, R. 1997. Accumulation pattern of persistent organochlorine residues in Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. Marine Pollution Bulletin 34: 186-193.
- Guruge, K.S., Tanabe, S., Fukuda, M., Yamagishi, S. & Tatsukawa, R. 1997. Comparative tissue distribution of butyltin compounds in Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. Toxicological and Environmental Chemistry 58: 197-208.
- Guruge, K.S., Tanabe, S., Iwata, H., Tatsukawa, R. & Yamagishi, S. 1996. Distribution, biomagnification, and elimination of butyltin compound residues in Common Cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Lake Biwa, Japan. Arch. Environ. Contam. Toxicol. 31:

210-217.

- 井関直政・益永茂樹・中西準子. 1999a. カワウ *Phalacrocorax carbo* におけるダイオキシン類の蓄積特性 (発表要旨). 第33回日本水環境学会年会講演集. p. 111.
- 井関直政・益永茂樹・中西準子. 1999b. カワウ *Phalacrocorax carbo* 卵におけるダイオキシン類の蓄積レベルと地域比較 (発表要旨). 第8回環境化学討論会講演要旨集. p. 148.
- 黒木麻希・加藤明子・羽山伸一・内藤靖彦. 1999. カワウの環境温度に対応した酵素代謝速度と心電波形の変化 (発表要旨). 第22回極域生物シンポジウム講演要旨集. p. 44.
- Mizutani, H., Kabaya, Y. & Wada, E. 1991. Nitrogen and carbon isotope composition relate linearly in Cormorant tissues and its diet. *Isotopenpraxis* 27: 166-168.
- 佐伯和利・岡部祐子・福田道雄・立川涼. 1995. カワウ体内中の微量元素 (第2報) (発表要旨). 1995年度日本鳥学会大会プログラムおよび講演要旨集. p. 108.
- 佐伯和利・岡部祐子・井関直政・山岸哲・立川涼. 1995. カワウ体内中の微量元素 (第1報) ICP-MSを用いた定量とその分布 (発表要旨). 1995年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 107.
- 佐伯和利・岡部祐子・山岸哲・福田道雄・立川涼. 1995. カワウ体内中の微量元素 (第3報). カワウ体内中の水銀とカドミウムの分布と変動 (発表要旨). 1995年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 50.
- 佐藤孝二・関比呂伸. 1987. カワウにおける重金属汚染とくにPb CdおよびCrについて. *応用鳥学集報* 7: 65-69.
- 佐藤孝二・島田清司. 1992. 繁殖季節—カワウについて—. 鳥類における産卵制御機構の内分泌学的研究. pp. 10-19. 平成3年度科学研究費補助金総合研究 (A) 研究成果報告書.
- 佐藤孝二・皇甫 宗・奥村純市. 1988. カワウの採食量と基礎代謝率. *応用鳥学集報* 8: 58-62.
- 立川涼. 1995. カワウにおける重金属蓄積. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 97-118. 国立環境研究所委託事務報告書.
- 山岸哲. 1995. カワウの胃から検出された寄生虫. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 79-96. 国立環境研究所委託事務報告書.
- 山岸哲. 1996. 遺伝的多様性の減少の影響の解明. 国立環境研究所委託事務報告書. 大阪市立大学. 23pp.

5. 形態

- 今村知子・杉森文夫・今井清. 1986. カワウの頭骨の外部形態に関する知見 (発表要旨). 1986年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 31.
- 福田道雄. 1990. カワウの性別・年齢別による計測値の比較 (発表要旨). *日本鳥類標識協会誌* 5: 83.
- 福田道雄. 1991. カワウとウミウの識別 (発表要旨). *日本鳥類標識協会誌* 6: 77.
- 福田道雄. 1992. カワウとウミウの識別. *はばたき* (238): 4.
- 福田道雄. 1995. カワウの尾羽の換羽および尾羽の枚数異常例 (発表要旨). *日本鳥類標識協会誌* 10: 30.

- 福田道雄. 1998. カワウの外部計測値による性判別(発表要旨). 第13回日本鳥類標識協会大会講演要旨集 p. 10.
- 黒田長禮. 1913. 羽田産カハツに就いて. 動物学雑誌 (296): 41-45.
- 松山資郎. 1933. 鶉と鷺の卵の比較. 植物及動物 (1): 127-128.
- 園部浩一郎. 1986. カワウとウミウの違い. 野鳥 (479): 6.
- 山岸哲. 1995a. カワウの外部形態. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 27-40. 国立環境研究所委託事務報告書.
- 山岸哲. 1995b. keratinized epidermal cap を使ったカワウの羽根の生長率推定法. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 41-61. 国立環境研究所委託事務報告書.
- 山岸哲. 1995c. カワウにおける左右対称性のゆらぎ Fluctuating Asymmetry. 希少野生動物の種の遺伝的多様性とその保存に関する研究—カワウの生態・形態・化学的研究—. pp. 119-131. 国立環境研究所委託事務報告書.

6. その他

- 愛知県道路公社. 1989. 鶉の環境調査報告書. 54pp.
- 福田道雄. 1988. 不忍池におけるカワウのカラーリングのバンディング. かわう (4): 4.
- 福田道雄. 1993. カワウのカラーリングの登録. 第1報 (1992年8月末現在). 日本鳥類標識協会誌 8 (1): 1-14.
- 福田道雄. 1994a. 不忍池のカワウのはじまり. どうぶつと動物園 46: 434-435.
- 福田道雄. 1994b. カワウの生態と被害. 応用鳥学ニュース (11): 3-4.
- 福田道雄・石田朗・須川恒. 1997. カワウ問題の全国的状況. 平成8年度カワウによる竹生島植生影響調査報告書. pp. 2-15. 滋賀県生活環境部自然保護課.
- 後藤伸・吉田元重・山本佳範・津村真由美. 1994. 田辺湾神島におけるウ類による糞害の生態学的研究. 田邊文化財 (37): 3-50.
- 今福美智夫. 1991. 浜名湖におけるカワウ駆除. かわう (10): 2-3.
- 石田朗. 1991a. 知多半島鶉の山周辺におけるカワウコロニーの植生に与える影響. 名古屋大学農学部卒業論文. 81pp.
- 石田朗. 1991b. 知多半島鶉の山周辺におけるカワウコロニーの植生に与える影響. 名古屋大学古川総合研究資料館報告 (7): 67-85.
- 石田朗. 1991c. カワウのコロニーの植生に与える影響(発表要旨). 第40回日本林学会中部支部大会講演要旨集. p. 47.
- 石田朗. 1992. カワウの生息が樹木に与える影響—葉への糞の付着について(発表要旨). 第103回日本林学会大会講演要旨集. p.106.
- Ishida, A. 1993a. Bird-Plant-Soil interactions in the colonies of the Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo*). 名古屋大学農学研究科修士論文. 128pp.
- 石田朗. 1993b. 琵琶湖におけるカワウ繁殖地の現状(発表要旨). 第104回日本林学会大会講演要旨集. p. 237.

- 石田朗. 1993c. カワウの生息が樹木に与える影響と林分の遷移. 関西自然保護機構 14: 99-106.
- 石田朗. 1994a. カワウの巣材集めが周囲の森林に与える影響(発表要旨). 第105回日本林学会大会講演要旨集. p. 641.
- 石田朗. 1994b. 琵琶湖のカワウコロニーにおける土壌の変性と植生の変化(発表要旨). 第105回日本林学会大会講演要旨集. p. 642.
- 石田朗. 1994c. カワウのコロニー形成に伴う植生の変化(発表要旨). 第41回日本生態学会講演要旨集. p. 22.
- 石田朗. 1995a. カワウの巣材集め行動がコロニー周辺の森林に与える影響(II). —造巢行動と巣材の人為的供給の可能性—. 日本林学会論文集 (106): 451-452.
- 石田朗. 1995b. カワウの巣材集めが周囲の森林に与える影響(II). —ペア毎の造巢活動と巣材の人為的供給の可能性—. (発表要旨). 第106回日本林学会大会講演要旨集. p. 115.
- 石田朗. 1996a. カワウの生息地が森林生態系に及ぼす影響—カワウ生息地の維持管理に向けての基礎的研究—. 名古屋大学農学研究科博士論文. 153pp.
- Ishida, A. 1996b. Effects of the Common Cormorant, *Phalacrocorax carbo*, on evergreen forests in two nest sites at Lake Biwa, Japan. *Ecological Research* 11: 193-200.
- Ishida, A. 1996c. Changes of soil properties in the colonies of the Common Cormorant *Phalacrocoax carbo*. *J. For. Res.* 1: 31-35.
- 石田朗. 1996d. 竹生島・伊崎のカワウ生息地における樹木の衰弱と植生の変化. 琵琶湖におけるカワウの生息状況. pp. 54-101. カワウ環境研究会.
- 石田朗. 1996e. カワウコロニーにおける樹木種子の発芽および実生の成育(発表要旨). 第43回日本生態学会講演要旨集. p. 32.
- 石田朗. 1996f. カワウの巣材集めが周囲の森林に与える影響(III). —樹上からの枝葉の折り取り量の推定とその評価—. (発表要旨). 第107回日本林学会大会講演要旨集. pp. 214.
- Ishida, A. 1997a. Seed germination and seedling survival in a colony of the Common Cormorant, *Phalacrocorax carbo*. *Ecological Research* 12: 249-256.
- 石田朗. 1997b. カワウの生息が森林生態系に及ぼす影響—カワウ生息地の維持・管理に向けての基礎的研究—. 森林科学研究 16: 75-119.
- 石田朗. 1997c. カワウの巣材採集行動とその営巣地の植生へ影響(発表要旨). 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 50.
- 石田朗. 1997d. 竹生島におけるカワウの営巣と植生の変化. 平成8年度カワウによる竹生島植生影響調査報告書. pp. 16-51. 滋賀県生活環境部自然保護課.
- 石田朗. 1997e. カワウの巣材集めが周囲の森林に与える影響(IV). —巣材供給実験からみたカワウの巣材採集特性—. (発表要旨). 第108回日本林学会大会講演要旨集. p. 224.
- 石田朗・横田岳人. 1995. カワウのコロニーが森林の及ぼす影響樹上落下物の季節変動からの一考察(発表要旨). 第42回日本生態学会講演要旨集. pp. 29.
- Kameda, K. 1998. Material flow from aquatic ecosystem to terrestrial ecosystem mediated by the Great Cormorant (Preliminary discussion). *Proceedings of the VII International*

- Congress of Ecology. p. 214.
- Kameda, K., Mizutani, H. & Koba, K. 1998. Analysis of material flow from aquatic ecosystem to terrestrial ecosystem mediated by the Great Cormorant by using stable isotope techniques (Preliminary framework). Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies. p.59.
- 黒田隆司. 1992. かわいそうなカワウ. いっぴつ啓上 (40): 9-11.
- 成末雅恵. 1998. カワウの移住作戦と湿地の保全. 遺伝 52 (7): 27-31.
- 成末雅恵・加藤七枝・福井和二・金井裕. 1997. カワウの集団繁殖地の誘致—浜離宮庭園から第六台場へ—(発表要旨). 1997年度日本鳥学会大会講演要旨集. p. 110.
- Narusue, M., Kanai, Y., Fukui, K. & Kato, N. 1998. Project Cormorant: moving a breeding colony of Great Cormorants in central Tokyo, Japan. Ostrich 69: 300.
- 成末雅恵・松沢友紀・加藤七枝・福井和二. 1999. 内水面漁業におけるカワウの食害アンケート調査. Strix 17: 133-145.
- 佐藤孝二. 1997. 試論：鳥衝突—中部新国際空港. 一宮女子短期大学紀要 36: 101-114.
- 沢島武徳. 1985. 揖斐川におけるカワウの有害駆除の問題点. Strix 4: 73-75.
- 須川恒・石田朗・福田道雄. 1997. 滋賀県における竹生島をはじめとするカワウ問題解決のための課題. 平成8年度カワウによる竹生島植生影響調査報告書. pp. 104-109. 滋賀県生活環境部自然保護課.
- 田子泰彦. 1998. 川鶴の出現で神通川から魚がいなくなる. 富水試だより (70): 20-27.
- 吉田元重・後藤伸・山本佳範・津村真由美. 1993. 田辺湾神島における海鳥の糞による森林の変容. 関西自然保護機構会誌 14: 85-97.
- 注) 一部, 出典不明記の内部報告書を含む